

第2回アイヌアートモニュメント設置検討会議 議事概要

【日時】平成25年5月21日（木）午後2時開会

【場所】札幌市役所本庁舎18階 第2常任委員会会議室

【出席者】

- ・委員：貝澤徹委員、上遠野敏委員、北原次郎太委員、津田命子委員、中原宏委員、水田順子委員、結城幸司委員、
- ・札幌市職員：長谷川利雄市民生活部長（検討会議座長）
アイヌ施策課長、アイヌ施策課企画担当係長ほか

【会議内容】

1 事務局から以下の説明があった。

第1回会議の概要について説明後、コンセプト、素材、設置場所、制作者、制作手法、設置時期、期間等について市の考え方を説明した。（資料1）

2 委員からの意見

○コンセプト、素材、設置場所について

- ・神話やユカラがテーマであればいいと思う。
- ・制作する数によっても変わってくる。
- ・モニュメントには色があってもいいと思う。
- ・アイヌ文様の地域性を出しながら、アイヌ文化を紹介できればいいと思う。
- ・イクパスイ（アイヌ民族の儀礼具のひとつ）だけではなく、イオマンテ（アイヌ民族の儀礼のひとつ～熊送り）のときに使うイカヨプという矢筒や、ヘペライという独特な儀礼具とアイヌ文様と組み合わせてモニュメントを作り、ライトで照らしたり、浮き出るような技法を使ってもよい。
- ・イクパスイは、言葉と道具と人をうまくつなぐものになり得ると思う。
- ・イナウ（アイヌ民族の儀礼具のひとつ）をトゥムシ（アイヌ民族が使用する飾りのひとつ）でつないでいく方法もよい。
- ・アイヌ文化のテーマの一つは、「語り」だと思う。語り合ってつないでいくということが希薄となっている中で、「語り」はアイヌ民族が自分たちの文化を示すよい方法だと思う。
- ・芸術の森にある砂澤ビッキ氏の作品のように、木がだんだん朽ちていく過程を見せてもいいと思う。
- ・音による表現があってもいいと思う。
- ・短期的な設置を考えるなら、国際芸術展との連携もありうる。
- ・アイヌ民族は、物を押しつけて生きていく考えではなく、小さな虫にも魂が宿っている

と考える。編んだゴザの残りを木の根元に置き、また、遊びに来てくださいねと感謝するといった自然観を持っている。

- ・リサイクルという考えから、自然との共生、循環する社会ということをテーマにするのも、すばらしいと思う。
- ・モニュメントづくりで終わらせるのではなくて、ずっと継続して目にしたり、学んだりしていく場をつくり出す機会になったらいいと思う。
- ・アイヌ民族の精神文化をメッセージに込める意味で、布という素材もよい。
- ・上手に作るより、みんなで作り上げていくといった考えもある。
- ・例えば木の作品が朽ちて森に帰すということは、次の再生のために行われることだと思う。
- ・防腐処理すれば木でも一定の耐久性はある。作品は何かを掲揚することが目的であり、永続性はそれほど必要ではないと思う。時間が経過すると、人々の考え方も変わってくる。
- ・布や木など、伝統的素材のほうが直接伝わってくるものがある。
- ・自然に任せて朽ち果てようとするときに、アイヌ民族の考え方を知らない人たちから片づけるべきと言われる可能性もある。
- ・一定のサイクルで変えていくことも考えられるが、作品の命を軽視していくことにもなりかねない。変える場合、それまでの作品をどうするのかという問題が出てくる。
- ・大きなモニュメントの多くは郊外にあり、関心のある人しか出かけていけない面があるが、関心のない人にとって、日ごろから目に触れる場所にあれば、関心も高まっていく。
- ・市民からモニュメントににじり寄っていくのではなく、モニュメントから市民ににじり寄っていくほうがよい。
- ・場所によって、つくるものの大きさやコンセプトも違う。
- ・イスタンブールのビエンナーレでは、市内の病院から赤ちゃんが生まれたと連絡があると東西を渡す橋に祝祭の照明をつけるというモニュメントの考え方もある。ドイツのアーティスト、ヨーゼフ・ボイスは、7, 000本の樫の木を何年もかけて町中に1本ずつ植えることでアート表現とした。
- ・自然に目につく場所でアイヌの文様の美しさを見せ、興味を持つ方に交流センターまで来てもらうという連携があるとよい。

○制作者、制作手法、設置時期、期間等について

- ・アイヌ文化に対する応援者として、作品づくりを手伝う人が多く出てくるというのが、今回のモニュメント制作の一番いいところになるかもしれない。
- ・アイヌ民族の貴重な手仕事でできた作品を市民がつなぎ合わせるという考え方もある。
- ・アイヌ民族の造形作家や若手は扱うことのできる素材に限られる。木でアート作品とするには、高度な技術が必要。

- ・公募とする場合、お手伝いとなってもらうのか、あるいはトレーニングを積んで制作そのものに関わるのか、明確にすべき。

3 今後のスケジュールについて

- ・事務局から、以下の説明があった。

本日のヒアリングでの意見を参考に市の考え方を加えて、第3回会議を5月28日、15時から開催する。